

山内委員長記者会見のポイント
(第 253 回 (10 月 28 日) 郵政民営化委員会終了後)

1. 本日の委員会議事について

- ・ 株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険から、資産運用の高度化について説明があった。

2. 委員会の質疑応答等について

【資産運用の高度化について】

- ・ 「有価証券における国債比率が他の生保は 40%くらいなのに対して、かんぽ生命は 70%程度ある。今後もこの水準を維持していくのか。」との質問に対して、
かんぽ生命から、「他の生保は長い歴史的背景もあって、株式の評価益や内部留保の比率が当社と比較してかなり潤沢にある。当社は政策株等も持たないため、株式はすべて純投資株となる。評価益の水準や資本の厚みも他の生保と比べてやや薄い。収益追求資産を他の生保と同程度まで上げるのは、リスクバッファの関係から困難であり、日本国債を中心とする保守的な運用を取らざるを得ない。」との回答があった。
- ・ 「E S G 投資や社会貢献について、ゆうちょ銀行よりかんぽ生命の方が強調されていると感じた。方針の違い、立場の違いがあるのか。」との質問に対して、
かんぽ生命から、「業態の違いが大きいと思っている。生命保険として、命や健康に直接関わりながら長期投資を行うという観点で、生保他社も E S G に力を入れており、我々も同様に市場に対してアプローチしていきたい。」との回答があった。
ゆうちょ銀行から、「当行は銀行ではあるが貸出を行っておらずアセットの業務が多いので E S G についてどのように開示していくかは悩ましい。基本的なスタンスは開示できるものは積極的に開示していきたいと考えている。当行と同様な銀行は無いため、E S G 等の対応を自ら切り開いて行かなければならない。こうした意味でチャレンジしている。」との回答があった。

3. 記者との質疑模様

- ・ 記者からの質問なく終了。